平成３０年度第３回学校教育審議会記録

平成31年2月19日15:00～
市役所本庁舎　大会議室

〔出席委員〕西坂千代子、井中貴史、伊木香代、松田恵、藤山正明、黒川泰、佐々木敬宗、名越和範、笠見猛、松井幸伸、山下千之、加嶋慎一（敬称略）

| | |
|---|---|
| １開会 | |
| 会長 | 開会挨拶 |
| 事務局 | 資料確認・会の時間の予定確認 |
| ２　報告 | |
| 事務局 | 協議事項（１）（２）について資料に沿って説明 |
| ３　協議 | |
| 会長 | 最初のページの「倉吉教育の創造」というところについて、全体としてＢの評価となっているが、ＡもＣもある。皆さんからご意見はあるか。 |
| 委員 | 小学校適正配置のことについて、保護者の間ではどうなったのかという声がある。 |
| 教育長 | ３月末ぐらいまでに何とか協議会の委員を出してもらうように調整しているところである。 |
| 委員 | ＰＴＡの代表など委員が替わってしまうというところもある。 |
| 教育長 | 改めてお願いをしなければならない。新年度に入れば、早々に１回目の会をさせていただいて、新しい方向を出していきたい。 |
| 会長 | ３月末には委員が出揃うという見込みということであるが、今年度、あまり進められなかったということでＣという評価である。全体としてはＢということだが、よろしいか。 |
| 委員 | 小中学校のエアコンの設置についてはどうなっているのか。 |
| 教育長 | 今、業者にお願いをして、共同企業体を３つ作っていただいてどういう形で工事をしていただくか今月中頃までに提案をいただいて、それでよければ３月中に契約してしまいたいと思っている。８％の消費税が１０％になるということもあるので、何とか３月中に契約できるよう準備しているところである。 |
| 委員 | エアコンの設置もそうであるが、プールの改修とか、進められている内容は各学校が希望をしているものなのか。保護者の方にも要望を聞くようなことがあるのか。 |
| 教育長 | 学校の方からの要望あるいは教育委員会の計画もあって、それぞれ随時、学校には説明をしながら進めている。ご指摘のとおり、保護者の皆さんにまで十分に説明はできていないかもしれない。 |
| 委員 | ここをこうしてほしいという要望を保護者の方に聞くことはあるか。 |
| 教育長 | ＰＴＡ連合会から様々な要望をいただくときに施設整備に関わるものが入ってくることがある。 |
| 委員 | 小学校は、直してほしい箇所などを各学校から出してもらって、それをＰＴＡ連合会がまとめて要望している。 |
| 教育長 | 中学校は、個別の学校のことについては学校からもらって対応している。 |
| 委員 | 以前、県ＰＴＡ協議会から要望書を出すということがあった。 |
| 教育長 | 鳥取県からは小中学校の修理費を出してもらえない。県ＰＴＡ協議会で動くときには、各市町村教育委員会に対して、それぞれが何らかの働きかけをしてくださいということになる。<br>修理や設備などについて保護者の気持ちも聴いてほしいということなので、そこは上手に吸い上げていきたい。 |
| 委員 | 中学校の施設で改修してほしいという箇所がある。小学校ＰＴＡはあるが、中学校ＰＴＡはそうした場があるのか。 |

| | |
|---|---|
| 委員 | 中学校ＰＴＡ連合会については、教育委員との懇談会がある。市内５校の中で、例えば、全部の学校のトイレを直すなど統一したテーマがあれば、意見を出していただく。各学校の個別のことについては、ＰＴＡ役員会などを通じて学校に出していただき、それを学校が市教委にお願いしていくということになる。 |
| 委員 | 時期がいつということではなく、気付いたときに要望を出すということですね。 |
| 教育長 | エアコンの件だが、事業費が８億円を越えていた。本年度の予算で付けていただいた。議会では、本年度中には工事ができないので、これを平成３１年度に繰り越して、夏までに１台でも２台でもつけれるように努力すると答えた。工事を請けてくださる業者のこともあり、夏までにどこまでつけられるかわからないが、その予定で進めている。これは本当に大きな決断だった。 |
| 会長 | それでは、「学力向上の推進」について、ご意見・ご質問はあるか。 |
| 委員 | 読解力のこととも関係しているが、長文の問題が読めない子どもが増えてきたように感じる。できる子はできるが、できない子の方が増えているように感じる。高校に入っていくと、読めなかったらどの教科も解けない。そこをどう上げていくかということになると保護者と協力体制を築いていくことが必要である。<br>ＡＩの導入により職業がなくなるといわれている中で、ＩＴ機器はもちろん使いこなさなくてはならないが、それ以前の問題で、素地としての資質の問題をどうやってアップさせていくのか。人権教育とか道徳教育とも関係してくると思う。どうやって基礎的に積み上げていくのか、大きな課題だと持っている。<br>また、自分の学んだことがノートにまとめられる子は大丈夫であるが、プリントとか問題集の穴埋めだけしている子は成績が伸びなくなってしまう。そうすると、ノートの使い方・書き取り方をしっかりと身に付けさせていくことが必要ではないか。これは家庭ともタッグを組まないといけない。 |
| 教育長 | 校長と面談していて、語彙力が本当にないところが課題だと言われる校長が何人かいた。辞書を使うようにしているとか、言葉を使った遊びを取り入れて語彙を増やそうと努力していると聞いた。本当は家庭でも意識していただいて、年齢に応じた子どもの発達を見ていただきたいが、なかなかそうならない事情もあるので、学校では弱いところを補う活動を継続していくしかないと思う。そういうことがきちんと低学年からできていれば、それなりのノートもとれるようになると思う。学年が上がってからやろうとしてもなかなか取り戻せないこともある。やはり年齢に応じた積み上げを意識していくべきだと思う。 |
| 委員 | 新聞をとっていない家庭も増えてきているが、世の中のことなどへの関心が低い。社会科などでも、ここに書いてあることは何だろうという状態で、教養部分が落ちてきているように感じる。<br>また、体験が知識と結びついていくということが少ないと感じる。倉吉の地名が読めないという実態もあるが、路線バスを利用したり、地図を見ながら歩いたりすることも地域を知る上で重要である。修学旅行で切符を買うのも初めて、路線バスに乗るのも初めてという経験をする子もいるが、そうしたことも学校が意識して仕掛けないといけなくなっているように感じる。 |
| 会長 | 中学校１年生と２年生のデータであるが、１年生に比べて総じて２年生の方が成績がよい。同じ子どもの１年時と２年時ではなくて、同じ年の１年生と２年生ということであるようだが、これはどう考えればよいのか。たまたま、この１年生は２年生よりも学力が低いということなのか、或いは中学校の取組がよいということで、入ってきてから伸びてきていると考えたらよいのか。軒並み、どの教科もそうなので何か傾向があるのかと感じた。 |
| 事務局 | 中学校１年生については、正直、危機感を感じている。これだけ全国平均を下回ってるのが多いというのは今までになかった。体力テストについても中学校１年生男子の体力が低い。中学校とも話しながら、学力面でも体力面でも鍛えてい |

| | |
|---|---|
| | く必要があると感じている。 |
| 会長 | 今の中学校１年生は全国学力・学習状況調査においてもそのような傾向があったのか。 |
| 教育長 | 昨年の小学校６年時においても課題が見られたので、中学校で１年間がんばったが、思うように結果が出なかった。この学年が特にそうなのか、それとも今まで取り組んできたことを見直さないといけないほど、子どもたちが変わってきたのかよく考えないといけないという意見が校長会でも出ていたが、しっかりと分析しないといけない。 |
| 委員 | 小学校での状況を聞いて、各中学校がそれなりに取り組んできた。努力していないわけではないが、十分に結果が出せていない状況にある。 |
| 会長 | 原因が特定できるか分からないが、いろいろ取組はされているとのことである。 |
| 委員 | 小学校段階から、いろいろ手を打ったが思うような成果が出なかったところがある。 |
| 教育長 | 方法としては補充的な学習を何らかの形で組み込むということをしないといけない。学年が上がれば新たな内容が入ってくるので、それと同時に補うこともやっていかないと取り戻せない。打てる手は学校と相談してやっていきたい。 |
| 委員 | 高校受験で合格ラインがここ１０年ぐらいでずいぶん下がっていると聞いた。そのあたりもなぜかを考えていかないといけない。 |
| 教育長 | 志願者数も大きな要因である。 |
| 委員 | 中部から東部・西部に流れているというのもある。 |
| 会長 | 経験からすると、志願倍率が大きい要因だと思う。「この点で合格できた」というラインが下がるというのは倍率が下がっているということ。中部の状況として、改善をすることがなかなか難しい。 |
| 会長 | この２ページは総合的にＢという評価だが、よろしいか。それでは３ページの「豊かな心とたくましい体」については、Ａの評価もあるが総合的にはＢの評価となっている。 |
| 会長 | 特になければＢという評価でよろしいか。それでは「倉吉に誇りと愛着を持つ子どもの育成」に入るが、ここはＡがたくさんあり、総合もＡの評価となっている。 |
| 委員 | 土曜授業は、地元に愛着を持って将来的に地元に残ってほしいということから始まったと聞いている。個人的に子どもが３人いるが、正直、仕事がないことには残れない。もし、３人とも出て行ってしまうとしても仕方ないという思いもある。そうした意味で、土曜授業の効果が表れているか。 |
| 教育長 | 生まれた倉吉のまちをよく知って、いいところだと思えるようにしたい。そこに地域の方や保護者がいっぱい応援してくださり、振り返ってみれば、よく面倒を見てもらったと実感できる中学生や高校生にしたい。そういうふうにしておけば、高校や大学を卒業した段階で地元の就職を考えてみたり、専門性を生かして都会でがんばる場合でも、きちんと倉吉を思い出せたりする子になるのではないか。そこを見ている。<br>働く場所について学校がどうこうはできないが、それぞれの子に基礎はしっかりとつくりたい。 |

| | |
|---|---|
| 委員 | 土曜授業で、保護者以外の大人に出会う場をつくっていただいている。そこで出会った人とのコミュニケーション力を養うことができる。敬語が使えたり、挨拶したり、地域の人がこんなにがんばっているということに気づく。そういう機会になっている。いろいろな大人の人に出会わせるという仕掛けとして必要なことだと思っている。児童数が少ないところは日々、地域の人と出会うということがない。こういう行事でもない限りは、子どもと接触する機会がないとおっしゃる方もいる。学校の先生もたいへんだし、地域の人もがんばってくださっているが、切らさないことが大切である。 |
| 委員 | これだけのことをやっているということがすごい。 |
| 教育長 | 中学生ぐらいになると、地域の皆さんにお世話になったという気持ちが育っている。これは今まで取り組んできた成果だと思う。地域に恩返しすることを考えてみないかと問いかけると中学生はいろいろなことを提案してくる。例えば地区の運動会で始まる前にステージの上に上げていただいて一言しゃべるなど仕掛けていただいているところもある。それぞれの立場でいろいろな場面をつくっていただいて育ててもらうということが、このふるさと学習につながっていく。 |
| 委員 | 地域の人に支えてもらったということが、将来、倉吉以外に出たときでも、誰かに対して何かをすることにつながっていくと思う。 |
| 委員 | ふるさと教育やキャリア教育をテーマにアンケートをとったりして進めているが、地域の行事の参加率はすごく高いのに、愛着を持っているとか、ふるさとを愛するという項目はあまり高くない。そのギャップは何なのかを考えていかないと本当のふるさと教育にはならない。<br>例えば、教室で地域の専門家が来られて話をされても、そのまま帰っていただくのではなく、そこから先にコミュニケーションがないといけない。学習の場面以外でのつながりをもてないかと考えている。 |
| 委員 | 年末の高校生フォーラムをみると、明らかに地域に目をすえた取組をそれぞれの高校がしている。それも人前で発表している。地域というのはしっかりと子どもたちのことを見ている。土曜授業の延長ではないが、それを繰り返していけば少しは変わってくると思う。非常にいい催しだと思う。 |
| 会長 | それでは総合的にＡという評価でよろしいか。<br>次の学校給食の充実、食育の推進は全体評価がＡとなっているが、どうか。 |
| 委員 | 学校給食衛生管理基準に基づいた衛生管理の評価がＢというのは異物混入があったということか。 |
| 教育長 | 食材をつくっている業者や原材料などに異物が入っていることがあり、給食センターの調理員が気付いて、給食への提供を中止したことがあった。調理員もかなり気をつかっている。 |
| 会長 | 栄養教諭による食に関する指導もずいぶんと行っているようである。<br>その他のことで何かあるか。 |
| 委員 | 赤ちゃんふれあい会を小学校５年生、６年生が行っているが、出てみると６年生の方が効果大だと思っている。体格でも６年生の方がしっかりしているので安心感がある。できれば６年生で行ってほしい。中学生でもやっていただけるとよいが、現在の希望としては５年生より６年生でしていただければと思っている。 |
| 事務局 | 関係課、学校と調整を図っていきたい。 |
| 委員 | 不登校のことであるが、いろいろな要因があってこうなっていると思うが、厳しい状況の子どももいる。子どもの人権の観点からいってもどうなのかなというケースも中にはある。厳しい、入れない家庭もあるが、何とか救いたい。<br>せめて学校以外のところでも勉強できるところがあればと思っているが、何とか力を尽くしたい。地域未来塾も中学校３年生を対象にやっているが、中学校１年生、２年生の段階からやっていくなど、必要なところに必要な支援を届けたいと思っている。 |

| | |
|---|---|
| 事務局 | 不登校について、継続的に休んでいる子については、学校が中心になりながら家庭訪問を随時行っている。また、スクールソーシャルワーカー、関係機関等も関わっているが、保護者がおられても出てこられない家庭もある。そうした中で少しでも連絡がとれる努力はしていきたい。 |
| 会長 | その他、ご意見はあるか。 |
| 委員 | それぞれの地区で行う「教育を考える会」の持ち方のことであるが、個人的には地域学校委員会が「教育を考える会」を主体的になってやることに異議はないが、一部では地域のいろいろな組織が入って実行委員会的にやるのが望ましいという意見がある。地域学校委員会の元々の設置の考え方があるので、そこを否定してまでやることもないが、「教育を考える会」を実体的に進めるのは、地域学校委員会でやった方が便利がいいのか、少し悩んでいるところがある。教育委員会としてはっきり線分けはできるのか。 |
| 教育長 | あまり分けなくてもいいのではないかと思っている。実は「教育を考える会」の運営や中身についてはもう少し見直した方がいいのではないかという意見もいただいている。新年度に向かって、まずは事務局で協議しながら、校長先生や地域学校委員会に相談をかけてもらおうと思っている。その中で実行委員会形式で動かした方がうまくいくというのなら、それはそれでいいと思う。 |
| 委員 | 当初「教育を考える会」が発足したとき、自治公が主催していたのではないか。いつから地域学校委員会が主催になったのか。それでよかったらそれでもいいのだが、実行委員会方式で地域をあげて教育を考えていこうという考え方で発足していたような気がしていた。どちらがいいのか分からないが、いつの間にか地域学校委員会がするということになっていた。当初の目的は、地域でという考え方だったが、地域学校委員会でやるとなかなか浸透しないのかという思いもある。 |
| 事務局 | 上灘地区では地域学校委員会と上灘地区教育振興会が共催で教育を考える会を開催している。 |
| 委員 | どちらがいいかわからないが、当初の発足したときの考え方と違ってきているのではないか。 |
| 委員 | 自治公が主催するとなると、いかにして地域の人が教育のことについて関心を高めるかという立場に立つ。ところが別のものが立つと、少なくとも子どもたちや保護者ももっと交わるような機会を作るべきという色分けになってしまう。どちらでもよいが悩んでしまう。 |
| 教育長 | ふるさとのことをどうやって子どもたちに分からせることができるのか。地域と学校がどうつながっていくか。保護者のみなさんも地域の一員であるが、自分には何ができるのかなど、いろいろな立場で話ができればいいのではないかと思う。それぞれの地域でねらいが違うことがあってもいいのかもしれない。 |
| 委員 | 「教育を考える会」の形は地域によって違うのか。以前は発表者があって、そこから各グループに分かれて、そこから話が盛り上がっていくということがあった。今年、数年ぶりに参加したが、発表で終わった。昔からであるが保護者よりも関係者の参加が圧倒的に多い。「教育を考える会」の趣旨が曖昧になってきているのかもしれない。 |
| 教育長 | いくつかのグループに分かれて話し合いをしたり、誰かの話を聞いたりしていることもある。方法についてはその都度、それぞれの地域で担当の方が決めているので、それでいいのかと思うこともあるが、内容については見直しをかける時期にきているのかもしれない。 |
| 委員 | 個人的には、いろいろな方と話ができることを楽しみにしている。 |
| 教育長 | 保護者同士のつながりにすごく意識を持っている地域がある。１年生の学級懇談に保護者のＯＢに入ってもらって保護者同士のつなぐことにチャレンジしており、すごくいいと思っている。親同士が仲良くなれば、子どもたち同士も当然仲 |

| | |
|---|---|
| | 良くなる。そういうことをもとにして「教育を考える会」を行うこともできる。 |
| 委員 | もともとは生涯学習課が始められた。土曜授業が始まったときに、地域の子どもは地域で育てるという雰囲気を地域に醸成させようということで始まった。地域の人が子どもに対して何ができるかということを突き詰めて考える研修会をするとなるとなかなか難しい。保護者の参加も少ない中で、形骸化してきたのではないか。 |
| 委員 | 地域の教育力を全体的に上げていくために、地域の人はもっと子どもに関心をもって自分の関われることをやっていく。保護者は保護者で今の子どもたちにどういう課題があって、どういうことができるのか考える。大人全体が今の子どもの現状の姿を一緒に認識し、それぞれが何ができるか考え、実際に動いてみるというふうに流れていけばいい。今は小学校区を中心に考えているが、やはり中学校卒業までの９年間を見通しをもって考えていただくべきだと思う。乳幼児の保護者にも中学校卒業、あるいは高校を卒業した段階で、こういう姿になってほしいというイメージをもっていただきたい。<br>そのあたりが年に１回すればいいのだということに終わってしまって、ぶれているのではないか。そこはもう一度、何のためにするのかということを提示していただいて、取り組む必要があると思う。 |
| 委員 | 中学校の関わりが難しい。関金の場合は小学校と中学校が交代で担当しているが、他のところでは３つの小学校が１つになる中学校となるところもあるので、どういうふうに関わればいいのかということがある。 |
| 会長 | なかなかたいへんだと感じた。会の趣旨をもう一度整理する必要があるのかもしれない。 |
| 委員 | 「家庭教育の充実」についてであるが、たくさんの講演会や研修会があり、いい話もあるが、参加する人がいつも決まっている。保護者も忙しいので、全部行くことは難しいが、どれか一つでもいいので参加してもらえたらと思う。どうしたらいいのかアドバイスをもらえないか。 |
| 委員 | 人権教育で小中学校で３つの研修会を設定して、どれか選んでもらうなど工夫をしている。今は公民館が主催されるものもあり、そこから選んでもらっているが、かなりの参加者がある。 |
| 教育長 | 学校現場にいたときに、年間の会の回数を減らすので、知らない人を一人連れてきてもらうよう総務部員にお願いしたことがある。参加者が固定化しているという課題がある中で、保護者の仲間づくりという面でもいろいろチャレンジしてみてはどうか。 |
| 委員 | ＰＴＡ役員会の後で各部落の人に地域に下ろしてくださいとお願いしている。最終的に文書は出すが、地域の連絡網で回してもらって、出欠は連絡帳でいいと伝えている。また、保護者には役員だけの出席ではなく、どなたでも参加していただけるということを伝えることで、多少、参加者が増えたように思う。 |
| 会長 | 他にご意見はないか。 |
| 委員 | 郷土を愛するということで、中学校に入って社会体験、キャリア教育的なことをしているという話があった。これだけ人口が減っている中で、やはり地域の力は自分たちでつくっていかないといけない。そのときに子どもたちがふるさとに帰ってくる、自分たちが支えていくという意識を持ってもらうために、一つのきっかけとして、地元の生え抜きの企業はどんなのがあるのかを知っていただくような場面も必要だと思う。<br>子どもたちに何がほしいかアンケートをとると「倉吉にジャスコがほしい」というときがあった。利便性があってそれはそれでいい。しかし、コンビニも経営者は地元でがんばっているが、利益はほぼ本部が吸い上げる。市内のスーパーでも一社しか生え抜きの企業はない。全部、地域外、県外であり、売り上げはそち |

| | |
|---|---|
| | らにいってしまっている。私たちは地元で買い物をしましょうという運動をやっているが、全部は無理としてもそういう意識をもってもらって、それで生活が成り立っていて、自分たちもこれからやっていくということに結び付けられないかと考えている。<br>　子どもがいた頃はいろいろ研修をしたが、子どもが卒業してしまうと遠い世界になってしまって反省しているところがある。「教育を考える会」も一過性ではないかという話があったが、そういう機会をいろいろな場面でつくっていくということと、形骸化しないためにＰＤＣＡを働かせて見直し、本当に重要なことは残していく、改めるべきものは時代も見ながら見直していく姿勢も必要だと感じた。 |
| 会長 | 　ありがとうございました。<br>　それでは以上で第３回の審議会を終了する。 |
| ４　閉会 | |